第２回 「アスマラの風景」

さて、今回は簡単ですがエリトリアの首都、アスマラの街の様子をご紹介します。

エリトリアの人口は（情報源によって大分異なりますが）推定３５０万人です。首都アスマラの街は非常に小さく、全長2kmくらいの1本の目抜き通りに商店が建ち並んでいます。これがたった一つの繁華街です。街は非常に清潔で、あまりごみは落ちていません。また、特筆すべきはその安全度です。ひったくり、泥棒、スリなどは存在しないといっても過言ではありません。同僚と一緒に街を歩いているとき、彼女が小銭を落としたのに気が付かずに歩いていたのですが、通行人の一人がそのお金を拾って持ってきてくれたこともあります。買い物をしてもきちんと値段が決まっていて、法外な値段をふっかけられることは殆どありません。エリトリア人曰く、エリトリアには「恥」の感覚があって、人を騙したり物乞いをしたりするのは恥ずべきことであるうえに、エリトリアは小さな社会なので何か悪いことをするとそれが噂になって一気に広まり、家族さえも蔑視されるというのです。実際、警察さえもめったにみませんが、この小さな共同体の中の「恥」の感覚が、伝統的に安全で正直な社会構造の一環を担ってきたといえるでしょう。

街を行く人々は殆どが洋服を着ていますが、伝統的な衣装を着て歩いている人もかなり多いです。簡単に言えば、男性は頭にターバンのようなものを巻いていて、女性は頭から色鮮やかな刺繍で縁取られた大きな白い布をかぶっています。ただしこれらの人々は、伝統的衣装を着ているうちの一部でしかありません。というのは、他にもたくさんの種類の衣装があるのです。なぜならエリトリアには9つの民族が平和共存しているからです。他の民族衣装はもっと色彩豊かだったり真っ黒だったり、また貴金属が服の生地のいろんな部分を飾っていたりします。宗教面でもキリスト教徒（オーソドックスとカソリックが主）とイスラム教徒が約半々で、見事なまでにお互いの存在を当たり前のものとして普通に暮らしています。例えて言えば、日本の多くの仏教徒と言われる人々が特別宗派の違いをめぐって反目しあったりしないような感じかもしれません。言語も9つあります。さらにイタリア語と英語も通じます。これはイタリアとイギリスによる植民地化の名残です。ちなみに新聞は日刊版が主要言語ティグレ語とアラビア語、週刊版が英語で発行されています。アスマラの目抜き通りにはイタリア領だった頃に建てられた美しい大聖堂があり、アスマラ全体のランドマークになっています。他にも、もうかなり古いですがイタリア風の住居なども多くあります。

今回は街の描写ばかりになってしまいましたが、次回は人々の生活に焦点を当てたいと思います。
（アスマラ通信第2回おわり）

エリトリア情報（外務省のページ）
http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/eritrea/index.html

エリトリアの家族